

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 港が丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

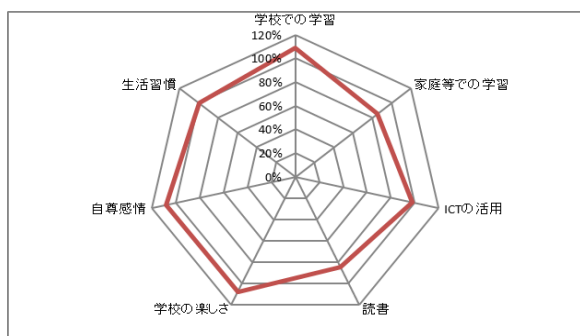
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○ 学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率より上回っている。 ○ 学習指導要領の内容「書くこと」については、全国平均正答率がほぼ同程度である。 ○ 学習指導要領の内容「読むこと」については、全国平均正答率が下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。 ○ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。	
	努力が必要な問題	○ 登場人物の相互関係について、描写をもとに捉える。 ○ 表現の効果を考える。	
算数	全体的な傾向や特徴など	○ 学習指導要領の内容「数と計算」「データの活用」については、全国平均正答率がほぼ同程度である。 ○ 学習指導要領の内容「図形」「変化と関係」については、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。	
	努力が必要な問題	○ 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 ○ 示された図形の手順をもとに、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	○ 学習指導要領の内容「地球」を柱とする領域については、全国平均正答率がほぼ同程度である。 ○ 学習指導要領の内容「粒子」「生命」を柱とする領域については、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 自分で発想した予想と実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。	
	努力が必要な問題	○ メスシリンダーという器具を理解し、正しい扱い方を身に付けている。 ○ 自分で発想した実験の方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○学校での学習については、「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていた」「自分の思いや考えを基に、新しいものを作り出す活動を行っていた」割合が全国を上回っており、児童の思考力を向上させるための活動が多く行われていたととらえている。 ○家庭等の学習や読書についての質問では、全国と比べても低い割合となっており、家庭学習の取組や読書習慣を身に付けさせることについて課題が明らかになった。 ○心の育ちに関する質問では、「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童の割合が全国よりかなり上回っており、本校が特に力を入れている「自尊感情の向上」が成果として表れているものととらえている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○国語科の学習においては、読書量の不足が最も大きな課題として挙げられる。児童質問紙の結果からも伺えるように、国語科の学習はもちろん家庭学習においても読書習慣を身に付けさせるための取組が必要である。また、学校では、朝学習や業間、行事的な取組としての読書の機会を多く取り入れることが大切である。
○算数科や理科の学習においては、重要な語句について正しく理解させるための学習を充実させるために、実験や作業について教科の特性を十分理解したうえでの指導を充実させていくことが大切である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習については、「学力・体力向上プロジェクトチーム」が、本年度から基本ベースとなるものを全校共通の内容(①教科の内容②読書③縄跳び)で計画・実践している。「継続」をキーワードに今後も続けていく。
○家庭への周知が課題であるため、学校通信、家庭学習通信、HPでさらに周知していく。